

# ナルナル的菌活書評

## 【森・家・人体に広がるミクロのネットワーク】

この写真↓は、私が付箋を貼った個所だ。付箋だらけになってしまって、かえって訳が分からなくなっているくらいだ。

しかし、どのページも示唆に富んだ出来事をわかりやすく説明してくれている。菌類が、植物よりも動物に近いと云うことも初めて聞く方がほとんどだろう。

こんなエピソードでんこ盛りの本書は、知っていると知らないのでは、生活のレベルが格段に異なるし、農家や植物栽培家にとってもその仕組みを知ること、無駄な施肥や作業をやらなくても済むかもしれない。

とりわけ、人は、地球の支配者だと思っている方も多い。影の支配者が菌類であることを本書から知ることができるだろう。尚、最終章では地球の生態系の保護について書いている。これもまた、一読の価値ありである。



最近、植物共生菌に関する一般向けの本が多数出版されるようになった。

しかし、ほとんどが外国で書かれた翻訳本だ。この本の著者キース・サイファートもカナダ、オタワ在住で、カルトン大学教授だ。40年以上にわたり、五大大陸を股にかけ菌類を研究してきた。序文を書いたロブ・ダン、ノースカロライナ州立大学教授。著書の『家は生態系』は『ナルナル的菌活書評』を書こうとしたきっかけを作ってくれた本で書評の第1号となった。分類や生態から、植物や昆虫との共生、農業や発酵など人類との関わり、病原体としての脅威、新素材や新食品開発などの最新テクノロジーまで、菌類のあらゆるトピック総まくりの一冊。

この本は菌類の生態についてほぼ網羅する。

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 書名  | 菌類の隠れた王国: 森・家・人体に広がるミクロのネットワーク |
| 著者  | キース・サイファート (著)<br>熊谷玲美(訳)      |
| 出版社 | 白揚社 発行日 2024/6/24              |
| 価格  | ¥2,700+税                       |

|     | 低い ⇄ 高い   |
|-----|-----------|
| 難易度 | ★ ★ ★ ★ ☆ |
| 活菌度 | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 面白さ | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 新規性 | ★ ★ ★ ★ ★ |

# ナルナル的菌活書評

【愛複雑で、興味深い土の世界を楽しみながら学べる、科学絵本の傑作！】

複雑で興味深い土の性質と役割を学ぶ。

土は、人間を含め、地球上のさまざまな生きもの暮らしを支えてくれる大事な存在ですが、

私たちは土の性質や役割についてどれほど知っているのでしょうか。

本書では、土の成分やさまざまな土の性質、生きものとのかかわり、自然環境のなかでの役割など、土と土がもたらす恩恵を、科学的な視点からわかりやすく説明しています。

\*\*\*\*\*

土とそのまわりには、いろいろな生きものがいます。昆虫、ミミズ、菌類、そして目には見えない細菌たちが暮らしています。土は、栄養や水、有機物をたくわえて命をはぐくみます。あなたの足元にある土は、じつはとても複雑で興味深い世界なのです。

土はどこにでもあります、意外と知られていないことがたくさんあります。

・雨がほとんど降らない砂漠では、植物はどう

やって生きのびているのでしょうか？

・ある菌類の大きさは、東京ドーム200個分ほどあるそうですが、信じられますか？

・土の扱い方ひとつで、地球温暖化の進行をおくらせることができると知っていますか？

以上は、出版社のページからの引用です。土壌菌類に関するページもあっと誰でも楽しめる内容のA4大判の絵本です。

英国王立園芸協会の監修なので、ヨーロッパの自然も知ることが出来ます。

絵もとっても独創的です。

小さなお子様から、ご年配の方まで、足元の世界がどうなっているのか、覗いてみたらいかがでしょうか。



|     | 低い ⇄ 高い   |
|-----|-----------|
| 難易度 | ★ ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 活菌度 | ★ ★ ★ ★ ☆ |
| 面白さ | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 新規性 | ★ ★ ★ ★ ★ |

|     |  |
|-----|--|
| 書名  | 奇妙で不思議な土の世界  |
| 著者  | 英国王立園芸協会 監修 / ウェンジア・タン イラスト / ジャクリーン・ストラウド 著 / マーク・レッドマイル=ゴードン 著 / 林 健太郎 監訳 / 北川 玲 訳 |
| 出版社 | 創元社  |
| 発行日 | 2024/05/15   |
| 価格  | 2,420 円 (税込)   |

# ナルナル的菌活書評

## 【樹木の基礎が学べる科学絵本！】



これまで17回、様々な書籍をご紹介してきました。植物と菌の緊密な関係、地球環境の話、森の樹木やマザーツリー、WWW(ワールドワイドウッド)と呼ばれる植物たちと菌糸のネットワークの存在。

人間が地球の王だなんて、とても言えないような世界が遠い昔から築かれていたことを知りました。

そして今回の書籍です。

本書を開いたとき情緒豊かなカラフルな絵が目の前に広がりました。そうです。この本は絵本なのです。それも判型：A4判変型 287mm × 237mm という大判な絵本なのです。通勤電車の中では広げるのはやめましょう。

科学的な知見に基づいたイラストが様々な生物を生き生きと自由闊達に描き出しています。

絵を眺めているだけで、心が落ち着くような穏やかな気持ちにさせてくれました。

それと同時にこれまで書評でご紹介した書籍の絵本化がされているなあと感じました。訳者は小学生でも読めるような内容で実際に訳者自身の小学生のご子息に読んでもらってアドバイスを受けたそうです。

小学生でも楽しめる内容ながら樹木の事はもちろん、地球の生物の大切なところもきちんとおさえていてとても良くできているのです。何よりも生き物への愛情が感じられます。さすがは英国王立園芸協会ですね。

|     | 低い ⇄ 高い   |
|-----|-----------|
| 難易度 | ★ ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 活菌度 | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 面白さ | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 新規性 | ★ ★ ★ ★ ★ |

|     |   |
|-----|---|
| 書名  | 奇妙で不思議な樹木の世界  |
| 著者  | 英国王立園芸協会 監修 / ジェン・グリーン 著 / クレア・マケルファトリック イラスト / 加藤 知道 訳 |
| 出版社 | 創元社   |
| 発行日 | 2024/08/16  |
| 価格  | 2,750 円 (税込)  |



出版社の特設サイトへのリンク。  
[特設サイト] 奇妙で不思議な自然の世界 試し読みや、詳細な解説があります。楽しさ満載です。

# ナルナル的菌活書評

【『私たち生きもの』の中の私』とは】



暖化や炭素循環など、環境問題が人類にとって大きな問題になっています。

本書の重要なテーマである「土」について、身近な存在として当たり前地上に存在はしていますが、土の中はブラックホールに近い存在で、せいぜい、木が根っこを張ったり、アリやミミズ、モグラの棲家くらいにしか認識していなかったのではないのでしょうか。土の中が如何に生命に満ち溢れた場所であることが分かったのは、最先端科学による遺伝子解析の成果です。それまでは、調べようすらなくて、単に想像するだけの世界であったわけです。

未知の可能性を秘めた土に回帰することで、今後の人類の歩むべき道を指示しているのではないかというのが本書の確信でありましょう。私は、以前から森の中では誰も肥料をあげないのに、樹木は枯れることもなくたわわに実を結んでいる姿を紹介してきました。ようやく、科学が現実を追いついてきたのだと思います。

進化しながら継続してきた生きものの中でヒト、つまり私たち人間が誕生しました。ところがその人間がいつの間にか「続いていく」という生きものにとってはあたりまえのことができそうもないところにきているのです。自然離れをし、成長・拡大・効率というかけ声のもと、資源やエネルギーを大量消費し、炭素循環という生きもの基本を無視した社会をつかってきたためです。引用終わり

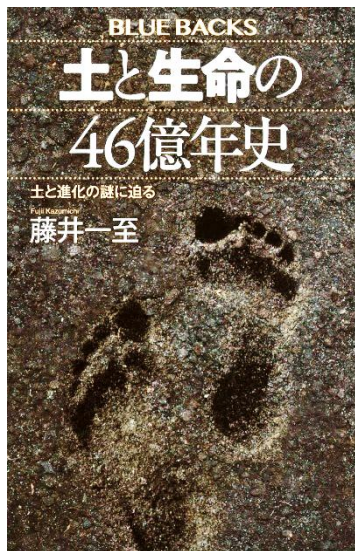
さて、土壌菌とか、菌根菌などを中心としてこれまで書評を展開してきましたが、地球温

|     | 低い | ⇔ | 高い    |
|-----|----|---|-------|
| 難易度 | ★  | ★ | ☆ ☆ ☆ |
| 活菌度 | ★  | ★ | ★ ☆ ☆ |
| 面白さ | ★  | ★ | ★ ★ ★ |
| 新規性 | ★  | ★ | ★ ★ ★ |

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 書名  | 人類はどこで間違えたのか 土とヒトの生命誌 |
| 著者  | 中村桂子                  |
| 出版社 | 中央公論新社                |
| 発行日 | 2024/08/07            |
| 価格  | 1100円 (10%税込)         |

# ナルナル的菌活書評

【あまりにも身近な土、だけれども誰にも注目されなかった土、そんな土の偉大さに気づかせてくれる】



本書は、土が人生の友と呼んでいいほど土にのめりこんだ土愛研究者の本だ。

この世にオタクは数多くいるが土オタクは珍しい。

地球 46 億年の歴史を 272 ページ

の中に納めなければならないのだから大変である。

前半が鉱物や物理学・化学としての土の変遷。中盤に生物が生まれて、いかに土が大切な役割を果たして来たかを明らかにする。

後半に人類が登場し、人類の進化と土の関わりに光を当てる。

土の科学は難易度が高い。化学の授業の様だが、この部分が筆者が人生をかけて研究してきた成果であることを理解できたし、土を知る上の基礎学力なのだ。

プロ農家でも初耳の知識が満載である。1枚の畑(約 300 坪)の中では、毎年、この場所だけは出来が悪いといった場所がある。何をやってもダメな不毛な場所である。そんな場所の解決にこの知識は役に立つかもしれない。

家庭菜園でも、プロでも初めての畑にチャレ

ンジするときは、その土地の履歴を徹底的に調べることが、その後の成功への近道となる。もともとどういう場所だったのか、何が植えてあったのか、盛った土はどんな土なのか。知らずに畑は出来ない。著者の探求心を大いに学んでほしい(おそらく今日も 40 億年の履歴を調査中だ)。

生物の中心にはカビやミミズなどの小さな生き物がいる。それらを育くんだのも大地だ。ただ、紙数の関係からか、菌糸や菌根菌の記述はそれほど多くはないけれど、最新のトピックや大切な個所はしっかりと押さえている。

全体にユニークな体験もちりばめてあって、土に親しむ人が増えてほしいとの願いがある。

|     | 低い | ⇄ | 高い |   |   |
|-----|----|---|----|---|---|
| 難易度 | ★  | ★ | ★  | ☆ | ☆ |
| 活菌度 | ★  | ★ | ★  | ☆ | ☆ |
| 面白さ | ★  | ★ | ★  | ★ | ★ |
| 新規性 | ★  | ★ | ★  | ★ | ★ |

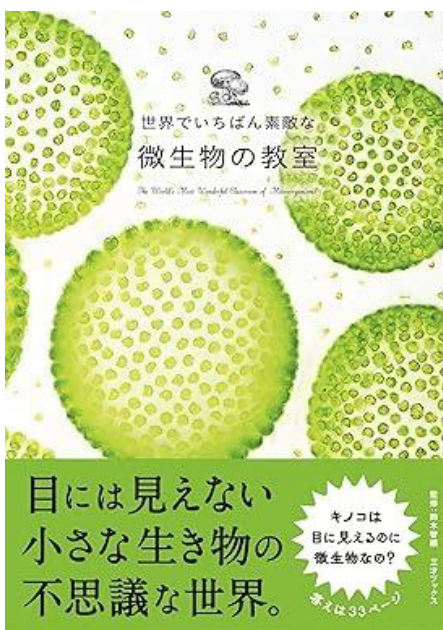
## 著者プロフィール

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 書名  | 土と生命の 4 6 億年史 土と進化の謎に迫る |
| 著者  | 藤井一至 (フジイカズミチ)          |
| 出版社 | 講談社                     |
| 発行日 | 2024/12/26              |
| 価格  | 1,320 円 (本体 1,200 円)    |

土の研究者。1981 年富山県生まれ。京都大学農学研究科博士課程修了。博士(農学)。カナダ極北の永久凍土からインドネシアの熱帯雨林までスコップ片手に世界、日本の各地を飛び回る。

# ナルナル的菌活書評

## 【美しい写真とシンプルな Q&A で伝えるビジュアル図鑑】



学校で習う生き物は動物や植物ばかりで、微生物は高校でもほんの少し扱うだけです。

このような背景もあってか、微生物のことがよくわからないということばをしばしば

ば耳にします。

学校で習わないだけでなく、目に見えないということも、微生物のわかりづらさに輪をかけているような気がします。

そんな微生物を紹介しているのが、本書です。一見、とっつきづらいように思える微生物に関する事柄をビジュアル多用で解説し、見ているだけでも楽しくなってくるはずです。

また、一問一答形式になっているので、どこから読んでも問題ありません。

パラパラとページをめくって、目についたところを読んでみてください。

次第に微生物の面白さや奥深さを感じるようになってくると思います。

(本書「はじめに」より)

ここからがナルナル的書評になります。

ビジュアル図鑑というだけあって美しい微生物の写真が中心のコンパクトな図鑑です。

サイズは A5 判並製とコンパクトで、カバンに楽に入ります。と言っても百科図鑑ではないのでご注意ください。

おそらく、読者となるのは、微生物って何だろうと素朴な質問を持った方。年齢は関係ありませんね。

ちょっと残念なのは、・・・・・・・・

植物と微生物の関わりに全くと言って良いほど何の記述もありせん。

ですから、ナルナル的には書評の枠から外れるかもしれないけれど、ナルナル的には植物も動物も同類なのですが、この本でも少しでも触れてくれたらなあ・・・と、思うのです

しかし、総ページ 160 ページですがその内、合計 10 ページが粘菌(変形菌)の紹介に使われているのです。南方熊楠の紹介もあるのです。素晴らしいですね。

|     | 低い ⇄ 高い   |
|-----|-----------|
| 難易度 | ★ ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 活菌度 | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 面白さ | ★ ★ ★ ★ ★ |
| 新規性 | ★ ★ ★ ★ ★ |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 書名  | 世界でいちばん素敵な微生物の教室 |
| 監修  | 鈴木智順(東京理科大学教授)   |
| 出版社 | 三才ブックス           |
| 発行日 | 2025/4/4         |
| 価格  | 1,870 円 (税込)     |